

令和 6 年度 第 2 回 静岡県立静岡城北高等学校 運営協議会

日時 令和 6 年 11 月 2 日(土)

出席者 学校運営協議会委員

大高千尋(同窓会関係者)

江原美紀(後援会長) 会長

河原正哉(企業関係者)

小池理恵(学識経験者)

杉山 誠(地域関係者)

武田光貴(PTA 会長)

静岡城北高等学校

校長 渡辺賢一

副校長 石原 忍

教頭 山田光俊

事務長 大坪淳子

教諭 吉川契子

《次第》

1 開会

2 ICT を活用した授業(オンライン英会話、学習支援ソフト)見学

3 会長挨拶

4 校長挨拶

渡辺校長から 6 月以降の本校生徒の様子、南海トラフ臨時情報発令、台風、中学生一日体験入学、体育祭、海外留学等の報告があった。

5 学校の概況

(1) 山田教頭から、6～10 月の部活動結果、新聞記事等のトピックの説明があった。

(2) 各委員からの感想

- ・生徒が主体的に活動している様子がうかがえて素晴らしい。
- ・生徒たちが、多岐にわたって活躍しており、学校が目指すところが達成されていると感じた。
- ・地域の町内会や PTA の活動も、一部の役員が活動し、参加しない人も多い。高校は参加型の活動がありよいと思うが、優秀な人材は(卒業後に)地域を離れて行ってしまう。
- ・地域の高齢化が進み、災害時に中高生の果たす役割の重要性が増していると感じる。ぜひ地域の防災訓練等に積極的に参加してほしい。
- ・積極的に活動している生徒は、「めんどくさい」が先には来ないで、「楽しみたい」という気持ちが先に来ている。

と思う。

- ・これまでは決まったルールに従う子が「いい子」であったが、今は「いい子」が多様化している。
- ・生徒たちが自ら考えて行動し、失敗してもよい環境を学校が用意していると感じる。
- ・世の中がどう変わろうと、主体性を持って行動することが大事である。
- ・学校教育の中で、「人とつながる」大切さを生徒たちが学んでいると感じた。

6 意見交換

(1) 授業での ICT の活用について(各委員からの意見)

① ICT の活用について

- ・ICT の良さは、積極的でない生徒の意見も拾えるところにあると思った。
- ・ICT の活用はとても良い面があるが、生徒同士の熱が伝わらないことがある。活発な生徒同士のかかわりを引き出す教員の工夫が求められると思う。
- ・なぜ ICT を活用するのか、目的やその効果を生徒に伝えていくとよい。
- ・スウェーデンは、バックトゥーパーの政策を取り入れているが、ICT と紙をどう使っていくか、工夫が求められる。

②オンライン英会話

- ・オンライン英会話のシステムの中に、無料の AI 英会話の紹介があったが、朝学習などで取り入れるとさらに効果が上がると思う。
- ・オンライン英会話は驚きである。英語アレルギーの解消には会話が大事である。
- ・楽しそうに会話している生徒が印象的であった。楽しむことが言語習得には非常に大切である。
- ・オンライン英会話を用いて、将来どのように社会の役に立つのかという目的意識を生徒に持たせることが重要である。
- ・短期間で言語を習得する動画(ウスビ・サコ京都精華大学元学長)を生徒に見せると効果的である。
- ・好きになることが大事であるが、そのために目標設定(これをやると将来どうなる)が重要である。
- ・震災後、多文化共生が注目されているが、災害時に言語的マイノリティを作らないために、多言語の防災パンフレットを作成してはどうか。

③授業支援ソフト(ロイロノート)について

- ・ロイロノートを用いて、意見交換が効率化している。
- ・ロイロノートで意見集約をして、その意見をどのように取り上げるかの工夫が必要である。意見を素通りして、マイナスの効果にならないようにすることが大切である。
- ・ロイロノートの振り返りを通して、次の授業でフィードバックを生徒たちに返すと効果がある。生徒のコメントをグルーピングして、それぞれの意見を多数派、少数派に分けてお互いに議論させると思考力の育成につながると思う。

(2) その他

- ・ソニー生命ライフプランニング事業の紹介
- ・生徒が主体的に企画をすると防災訓練も楽しく、積極的に参加できるのではないかな。

7 閉会